

■2025 年度 名古屋ファッション専門学校 自己評価報告書

評価点 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

大項目		評価項目		評価点	現状	課題	改善点
I	教育理念・目的・目標	1	学校理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	明確に定めている	特になし	
		2	学校における職業教育の特色は明確であるか	4	学校基本情報に明確にうたっている	特になし	
		3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	常に社会のニーズを踏まえた教育目標を設定している	特になし	
		4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	オリエンテーション、オープンキャンパスなどを通じて周知している	特になし	
		5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	学科ごとの特色のあるカリキュラムにより方向づけられている	特になし	
II	学校運営	1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	運営方針は明確に策定されている	特になし	
		2	運営方針に沿った事業計画は定められているか	4	運営方針に沿った授業計画を策定している	特になし	
		3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	定期的な職員会議を開催し意思決定を行っている	特になし	
		4	人事、賃金面での処遇に関する制度は整備されているか	4	整備されている	特になし	
		5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	法人の理事会、評議委員会でされている	特になし	

大項目		評価項目		評価点	現状	課題	改善点
II	学校運営	6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	整備されている	特になし	
		7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	シラバス・ホームページにより適切になされている	特になし	
		8	情報システム化等による業務効率化が図られているか	4	情報システムの担当者を配属し、集中管理し効率化を図っている	特になし	
III	教育活動	1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	策定されている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する	卒業生を含め業界で活躍する人材からの情報収集
		2	教育理念、育成人材像や業界にニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	明確にされている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する	卒業生を含め業界で活躍する人材からの情報収集
		3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	編成されている	特になし	
		4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし	
		5	関連分野の企業・開発施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし	
		6	関連分野における実践的な教育産業（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし	
		7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	学生による授業評価を実施している	特になし	

大項目		評価項目		評価点	現状	課題	改善点
III	教育活動	8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	インターンシップ等の機会を通じて取り入れている	特になし	
		9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	明確になっている	特になし	
		10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科の特性に応じ、必要な資格を体系的に位置付けている	特になし	
		11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	実務経験のある教員、講師を確保している	特になし	
		12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	自身の専門業務を行いながら本学の教育に携わる外部講師を多く確保している	特になし	
		13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため、教員に向けての研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	外部で開催される技術研修、学内での学生指導に関する研修を行っている	特になし	
		14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	外部で開催される技術研修、学内での学生指導に関する研修を行っている	特になし	
IV	学修成果	1	就職率の向上が図られているか	4	専任の担当者を置き、就職率の向上を図っている	特になし	
		2	資格取得率の向上が図られているか	4	通常授業以外に専科、補講を設け、資格取得率の向上に努めている	特になし	
		3	退学率の低減が図られているか	3	担任、教務担当などが保護者を含めきめ細かく対応しているが一定数の退学者がいる	心因性の要因で学校生活が続けられない学生に対する方策を考える	学内カウンセラーの活用

大項目		評価項目		評価点	現状	課題	改善点
IV	学 修 成 果	4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	在校生の活躍については随時SNS、学校案内で公表している。企業と連絡を密にし、就職した学生の動向を把握している	特になし	
		5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	企業説明会やセミナーの際の来校や、卒業生のSNSフォローなど、学生のキャリア教育の向上に活かしている	特になし	
V	学 生 支 援	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	整備されている	特になし	
		2	学生相談に関する体制は整備されているか	3	担任、場合により教務担当、校長が面談に対応している	時間の許す限り対応はしているが、メンタル面の問題を抱える学生も多い	学校法人の設置しているカウンセリング制度利用を促している
		3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	奨学金、専門実践教育訓練給付金制度などで対応している	特になし	
		4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年1回健康診断を行っている	特になし	
		5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	学生の参加するファッションショーなどに学校の備品、施設の貸し出しなどを行っている	特になし	
		6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	学生会館の紹介により行っている	特になし	
		7	保護者と適切に連携しているか	4	必要に応じ、電話、書面、メールにて連携している	特になし	
		8	卒業生への支援体制はあるか	3	施設、備品の貸出、業務内容の広報、SNSなどによる情報拡散で支援している	同窓会による支援体制の強化を図りたい	

大項目		評価項目		評価点	現状	課題	改善点
V	学生支援	9	社会人のニーズを踏まえ教育環境が整備されているか	2	社会人の入学生がごく少数のため特別な整備はされていない	特になし	
		10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	10校余りの高校へ出張授業などを行っている	体制を整えさらに多くの高校と取り組みを行いたい	
VI	教育環境	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	整備されている	特になし	
		2	学外研修、海外研修、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4	整備している	特になし	
		3	防災に対する体制は整備されているか	4	整備されている	特になし	
VII	学生募集	1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	オープンキャンパス、入学相談会、高校訪問等により実施している	特になし	
		2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	伝えられている	特になし	
		3	入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われているか	4	行われている	特になし	
		4	学納金は妥当なものとなっているか	4	妥当と思われる	特になし	
VIII	財務	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	安定している	特になし	
		2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	妥当である	特になし	
		3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	適正に行われている	特になし	
		4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	整備できている	特になし	

大項目		評価項目		評価点	現状	課題	改善点
IX	法令等の遵守	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	適正に運営されている	特になし	
		2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	適正に対策している	特になし	
		3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	行っている	特になし	
		4	学校自己評価の結果を公開しているか	4	学校サイト上で公開している	特になし	
X	社会貢献・地域貢献	1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	地場産業や商業施設などとのコラボレーションイベントなどを随時行っている	特になし	
		2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	必要な場合は支援しているが一部把握しきれていない部分もある	特になし	
		3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	行っている	特になし	
XI	国際交流	1	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	4	取られている	特になし	
		2	留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか	3	特に積極的には行っていない	特になし	
		3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	整備している	特になし	
		4	学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4	国内外のコンテストに応募するなどして取り組んでいる	特になし	

2025 年度 学校関係者評価委員会報告書

名古屋ファッション専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員会出席者（順不同・敬称略）

名古屋帽子協同組合 理事長 林幸春

株式会社織研新聞社名古屋支社 名古屋業務部課長 久保寺恭稔

駐日タンザニア大使館商業文化交流中部地区 名誉代表 清水邦子

名古屋ファッション専門学校 校長 佐藤弥生

名古屋ファッション専門学校 副校長・教務主幹 桐谷里砂

2. 学校関係者評価委員会開催日時

2025 年 11 月 25 日（火）10 時

3. 参考資料

① 学校関係者評価委員会報告書

② 2024 年度 自己評価結果

（教育理念・目的・人材育成像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、
学生の募集と受入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流）

③ 2024 年度 学内外行事記録

④ 2024 年度 クラス別就職状況

4. 報告内容

上記資料送付をご覧いただいたうえ、各委員様それぞれのお立場から本校へのご意見をいただきました。（別紙）

(別紙)

I. 教育理念・目標

現状と課題	本校の建学の精神である「実学と人間教育」を教育理念とし、各学生の就職目標に応じた知識、技術を身に付けるための実務教育を主体とした学修内容に加え、社会人としての一般常識、マナーなどをバランスよく修得できるような授業計画を立てている。時代に即応した実践教育を行い、ファッション製品の企画・生産、流通、販売促進などの業務を通じて、アパレル業界で活躍できる人材の養成を目的とする。 通信制高校の卒業者が入学することも増え、授業内でのグループワーク、学校行事や集団行動の際に他となじめない傾向を持つ学生も一定数いる。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	様々な場面で「内向き」な若者が多いと感じる。せっかくの専門教育を生かすべく積極的に仕事に取り組む、チャレンジする姿勢が欲しい。
<学校> 改善案など	学生が自ら物事にあたり、問題解決策を考えられるよう、意識改革を行う必要がある。シラバスや学校行事の見直しを実施し、自らの学習内容を把握し、自己研鑽できるような学生を育てたい。

II. 学校運営

現状と課題	学校法人の運営は、毎年度策定している事業計画に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、年度ごとに「理事会」「評議員会」において審議され、決定している。 本学全体の運営に関わる「自己点検・評価委員会」「学校関係者評価委員会」は既定の委員により協議決定して実施する。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	2025年度は出願数が大幅に増加したとのことで、業界に向けた適切なカリキュラムの構築に加え、24年度から積み重ねた広報活動や、コンテスト入賞などの実績が功を奏していると思う。次年度以降も広報的な効果に繋がる実績を作ることが大切だと思う。
<学校> 改善案など	今後もファッション業界の動向をしっかりと捉え、学校運営の方向性を策定したい。

III. 教育活動

現状と課題	教員の専門性を高めるための各種研修会、セミナーへの参加、研究発表への参加などに積極的に参加している。教員は専門に応じて複数回研修などに参加し、常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集し、世情に合った授業内容の刷新を図っている。 授業においては実技、実習を中心に修得するという専門学校の特徴を生かした学修の場を設けている。 アパレル企業各社との連携を密にし、アパレル業界のニーズにあったカリキュラム実施に向けて検討する体制を整えている。
-------	--

<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	初任給を大幅にアップする企業があるなど、アパレル企業の労働環境は整ってきていると感じるが、反面新入社員に求められる能力もレベルが上がってきているのではないかと。それに対応するために、何か新しい教育方針、教え方が必要ではないか。 弊社には 10 名のデザイナーがおり、東京文化服装学院卒で名古屋に転勤させた者もいる。やはり若い働き手は内向きにならず、どんどん外に飛び出していくような活気が欲しい。
<学校> 改善案など	引き続き、教職員より身近な存在である企業に勤務している卒業生に、企業、業界の実情を踏まえながら学生にレクチャーをしていただく機会を多く設けた。リアルな現場の声を聞くことにより、学生だけではなく教員側も授業の内容や進め方に多くのヒントが得られた。

IV. 学修成果

現状と課題	本学は担任制をとっており、各担任が就職部と連携を取り各学年の「就職特別講座」の実施や「進路報告書」の記入・提出を徹底している。 就職率は下記のようになっており、就職あっせんを希望する学生に対しては毎年目標の 100%の結果を出している。今後も継続できるよう支援の強化を図っていく。 ①全卒業生対比 ②学校からの就職斡旋希望者対比 2024 年 3 月卒業生→① 98.4 %、② 100 % 2023 年 3 月卒業生→① 92.3 %、② 100 % 2022 年 3 月卒業生→① 91.0 %、② 100 % 資格取得に関しては、各学科において必要とされる検定を必修とし、授業内で取り組んでいる。昨年よりも合格率が上向いている検定もあり、今後も授業内容や指導方法の検討を重ねたい。 外部コンテストで上位入賞者を複数輩出するなど、クリエイション、モノづくりについて成果を出せた 1 年であった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	人手不足が話題になっているが、企業間の格差がますます顕著になってきていると感じる。業績の良い企業は初任給の大幅アップだけではなく、社員の給与を同水準上げているところもある。ファッション販売系は条件の良い企業が多いが、織研新聞で連載されていた縫製関連企業の現場の声は大変厳しいものがあつた。 今まで低賃金でずっと耐えてきた部分、業態に若い新入社員がもう我慢できないという状況になっている。 弊社がファッション業界の合同企業説明会に参加した際にも企業間の格差は大いに感じた。人が集まる企業、そうではない企業の差が激しい。先ほどの待遇面の

	差もあるかと思うが、帽子業界への関心の薄さを感じた。帽子業界だけではなく、知名度、身近さなどで興味を持たれない企業も多く、幅広く関心を持ってもらいたいと思う。 最近求人をお願いした、トヨタ自動車のメカニックの方が着用するユニフォームの縫製企業様を訪問したが、非常にスタイリッシュで機能性の高いモノづくりをしているのに新入社員を採用することが難しいとおっしゃっていた。実際働いてらっしゃるのは海外からいらした方が多い。こういう企業様は他にもたくさんあると思うので開拓していきたい。 コンテストで大きな賞を受賞された方々が普通科や商業科など、専門学校で始めてファッションを学んだ学生ということは特筆すべきことだと思う。未経験者が結果を出せる教育は素晴らしい。
<学校> 改善案など	就職実績はおおむね満足のいく結果だが、アパレル、ファッション業界の環境の変化と、人材として求められる人物像の変化に柔軟に対応できるよう努力したい。また知識や技術以前の問題として、在校生に自主性、自身で考えて行動する力が足りないと感じるところが多い。授業カリキュラムの中で、いかに上記のような力を持った学生を育てるかを考えたい。 外部コンテストについては引き続き力を入れていきたい。

V. 学生支援

現状と課題	入学から卒業まで、学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要であるが、本校はそれぞれの目的に沿って支援を行っている。 就職指導は、就職部の担当者主導のもと、教員との連携で支援を行っている。具体的には、エントリーシート記入、就職面接練習、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、校内企業説明会の開催である。その結果、就職率のアップに繋がっている。 中途退学者率を減少させることを目標に担任は保護者、教務との連携を密にして退学に結びつきやすい状況を的確に把握し、対応できる指導体制を強化しているが、一部のクラス担当教員に、各所への連絡の遅れ、漏れが散見する。 学生の経済的支援としては、奨学金を必要としている学生が申込みの機会を逃すことのないよう、本校独自の奨学金制度や、国の就学支援制度などを随時説明している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	入社後2日で退職するなど、仕事に対する態度が以前とは全く異なっていると感じる。退職代行企業や「静かな退職」といわれる働き方が身近に実在する。半面引き抜きや人材紹介企業の動きも活発で、優秀な人材は転職してしまう現実がある。

	昨年度から導入されているカウンセリング室の利用状況はどうか？ 今年度の資料の内容で良かったのは退学者が少ないこと。何か原因はあるか？
<学校> 改善案など	就職に向けての訓練の場として、自主性、協調性が求められる専門学校での状況になじめない通信制高校の卒業生が一定数いるが、基本的な他人との関わり方を身につけ、徐々に成長させる必要があると感じる。 カウンセリング室は一定数の利用者（学生、保護者、教職員）がおり、設置の効果を感じている。 退学者減少の原因としては、コロナ禍収束から時間もたち、人間関係の築き方が分かってきた学生が増えたのではないかと思う。

VI. 教育環境

現状と課題	縫製やドレーピング、パターンメイキングなど、ファッション造形に関する備品（ミシン、特殊ミシン、アイロン、ボディなど）や IT 機器などの施設・設備は、教育の必要性に応じて整備充実を図っておりそれらのメンテナンスにも配慮しているが、一部に経年劣化のため買い替えが必要な備品がみられる。 校舎は 10 年前に耐震工事を完了し、安全が確保されている。また、校内外の清掃は専門業者により行き届いており、清潔な教育環境が整っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	他の専門学校と比較しても設備的に見劣りするところは感じられない。 IT 設備や授業をするための備品なども整えられており、学生が安心して学べる教育環境だと思う。
<学校> 改善案など	毎年パソコン教室や実習用備品の整備を行っているが、特にファッション業界でも進む DX 化に対応できる人材育成の環境を整えたい。

VII. 学生募集

現状と課題	学校経営の基盤である学生募集については、教員をはじめ全職員が連携し取り組むべきであるが、業務過多のため取り組みに参加できない教員もいる。 同種の全国的な有名校と比較しやや認知度が低い印象があるため、認知度を高めるために学校案内（冊子）、WEB サイト、SNS など広告宣伝は、毎年高校生の動向を見つつ行っている。 入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。 学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、適切な金額を設定している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校> 改善案など	オンラインでのオープンキャンパス、高校へ出向いての出張授業などは一定の成果が出始め、手ごたえを感じている。

	高校生対象のデザイン画コンテストの入選者が入学に繋がった実績も増えてきているので、更に広めていきたい。
--	---

VIII. 財務

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学校法人中西学園の擁する学校ということで、信頼感は大きく感じる。
<学校> 改善案など	さらに財務状態を良好にするため、学生募集に力を入れたい。

IX. 法令等の遵守

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。 法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正にも速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。 また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、校長会議、職員会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校> 改善案など	今後も現状を維持したい。

X. 社会貢献・地域貢献

現状と課題	社会貢献、地域貢献により社会とのつながりを深めることは、教育上大切なことと捉えて推進している。地域の各団体と積極的にコラボレーションし、ファッションショーやイベントへの参加を通して関りを深めている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学生と地域を結びつける試みは年々良い結果を残していると感じる。 ある地域のイベントに参加した某国の外交官夫人のいで立ちが、自国の布を使用した素晴らしいコーディネートで、大いに会場を沸かせ自国のPRになっていた。ファッションの持つ力を改めて感じ、ファッションを職業にする皆さんにはこのような志、自分を表現する武器としてのファッションに携わっていくのだという自覚を持ってほしい。

<学校> 改善案など	時代の変化を敏感に捉え、グローバル、グローカルな視点をもって、できるだけ多くの社会貢献、地域貢献行事に取り組みたい。
---------------	--

XI. 国際交流

現状と課題	少数の留学生が入学を希望する場合がある。会話などには不自由ないが、書類記入や課題作成などには担当者のきめ細かな配慮が必要である。 また恒例行事である海外研修旅行は、コロナ以降初めて 2025 年 3 月に催行され、韓国ソウルへ 3 泊 4 日の研修を行った。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	2024 年度の 6 月にはタンザニアとの交流イベントとして、千種区のメルパルクホールを会場にしたファッションショーを開催し盛況のうちに終了した。学生の皆さんが、カンガ（東アフリカで用いられる 1 枚布）に触れて、それを使ったコーディネートをする時に、実際の布を見て、触って、こういう発想のある国があると理解していただけると嬉しい。今回はフォーマルでドレスリーなコーディネートが多く登場し、このような発想もあるのかと驚きがあった。ゆくゆくは来日したアーティストとの交流なども行いたい。 海外研修旅行については更に参加者が増え、海外の動向についての見識を高める学生が増えることを希望する。
<学校> 改善案など	留学生の受け入れについては、希望者があれば本人の資質、言語能力などを見極め、できる限り対応したい。 今後も可能な限り多様な国際交流に取り組み、学生の視野を広げる機会を多く持ちたい。

<まとめ>

本学について皆様より貴重なご意見をいただきました。2024 年度は国際交流分野のイベントや、海外研修旅行の復活があり安堵する反面、DX 化の進む世の中の動きに対応できる人材を育成するためのカリキュラムを模索する 1 年でもありました。

テクニカルクリエイション科が参加する外部コンテストでは、装苑賞グランプリ受賞者、YKK ファスニングアワード審査委員特別賞受賞者を輩出し、本校のクリエイション、モノづくりの実績を重ねられました。ファッション流通科は服飾造形実習のカリキュラムを大幅に見直し、卒業制作のファッションショーの授業においても、企業の力を借り、実際の店舗で販売促進の授業を行うなど大きな変化がありました。

学校の授業や学校生活での経験が、知識や技術を身に付けるだけでなく、社会で働くために必要な人間力を育むため、今後、教職員の意識変革、学生の精神面での問題に対応するためのセミナーの受講や、専門の学内カウンセラーの積極的な活用を進め、改善していききたいと思います。

次年度の学校運営について、頂戴したご意見に基づき早々に運営計画をまとめる学内会議を設け、どのような人材を育てることを目標にするのかを最優先とし、その他の目標についても計画実施のプラン作り等の取り組みをする予定です。